



新年のごあいさつ



四国中央市長  
篠原 実

新年、あけましておめでとうございます。9万市民の皆さまと新春を元気で迎えられることを喜びたいと思います。振り返れば、たくさんの方が足跡として残っています。その足跡の中には、決して消してはならない人間の営みがあり、その人の人生の哀歓が込められています。新しい年を迎えるに当たり、自分の小さな背中にどれほどの思いを背負っていかれるかわかりませんが、背負えるだけ背負って、一步一步前へ踏み出そうと決意しています。

今年も市政には、難問が山積んでいます。中には目をそらしたくなるような難題もあります。市民の皆さまや千人の職員の情熱を杖にして、ヘッドライトで5メートル、20メートル先をしつかりと照らして、足元を踏みしめながら頑張ろうと思っています。

部屋から見える港や海の景色は、地球が丸いということも教えてくれます。遠くにはしまなみ海道の橋も見えています。自分も歴史の1ページに参加していることに感謝しながら、四国中央市の歴史を作っていくかなければならない、という大きな使命感もあります。一つ一つの市政の課題にしつかりと粘り強く、勇気を持って結果を出していくため、関係機関の多くの皆さまにより一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、今日までの先人の皆さま方のご尽力に改めて感謝申し上げます。四国中央市の限らない発展を祈念して、新春のご挨拶といたします。



四国中央市議会議長  
原田 泰樹

市民の皆さまにはお健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。旧年中は、市議会に対しまして温かいご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、7月の西日本豪雨に始まり、近年に多くの台風や暴風の襲来による暴風雨被害が多発した年でありました。また、大阪や北海道においては、大規模な地震が発生するなど、改めて自然の猛威を目の当たりにし、さまざまな防災対策の緊急性を痛感しているところであります。

そのような中、四国中央市の顔となる新庁舎の完成により、市民の皆さまの利便性が向上し、より親しみの持てる市役所になったことと思えます。また、川之江ふれあい交流センターの完成により、三世代交流の場も整備されました。現在建設中の市民文化ホールも順調に進んでおり、市の基盤となる大型事業は着実に完成に向かいつつあります。また、津根工業団地造成事業についても順調に進捗しており、地域産業の振興と雇用の拡大につながるものと期待しているところでございます。

市議会におきましては、平成30年9月議会で、議会基本条例を制定し、市民の多様な意見を反映させ議論する合議制の機関であることを常に自覚し、市民にわかりやすい開かれた信頼される議会を目指してまいります。

地場産業の振興や中核病院の整備、そして少子高齢化など喫緊の課題が山積しておりますが、市民の皆さまの負託に応えられる市議会、そして市政の発展、市民生活の向上及び市民主権による自治を推進するため、ますます研鑽を積む所存でございます。

今後、市議会は市民の代表として、決意も新たに全力を尽くしてまいりますので、どうかこれからも、力強いご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、新春を迎えまして、市民の皆さまのご多幸、ご繁栄を心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。